



東武東上線の鶴ヶ島駅前周辺で、毎週月曜日にオレンジのシャツに黒のズボンとベスト姿の男女がゴミを片付けている姿が見られます。埼玉県でホールを展開する株式会社・郡慶のマルチャン鶴ヶ島駅前店の従業員たちです。若者たちは道路に落ちて

いる紙クズやタバコの吸い殻などを見つけたら、丁寧に拾い集めては手にしたポリ袋に入れていきます。お店の出勤が午前8時なので、同30分ごろから清掃に取り掛かり、駅を中心に約1時間作業を続けます。従業員のうち3、4人が交代で参加し、もう7年間も続いているという恒例行事です。

川越市に隣接する鶴ヶ島市は池袋から急行で40分余りの東京のベッドタウンです。この住民たちと従業員たちとの交流は多岐にわたっています。お店のある地域の上広谷夏祭りには約20人が参加して、午後1時から5時間も神輿を担ぎます。途中、地区の婦人会などの差し入れをもらったり、話を交わしたりし、一気に近隣との距離が縮まったそうです。今年も7月にそろいの法被にねじり鉢巻き姿の従業員たちが近所の人たちと威勢よく練り歩きました。また、野球部、サッカー部があり、春、夏、秋の地区大会に出場しています。同社の房野正志常務は「地区の行事は土日が多いのですが、本部を含めた人数のやりくりをして参加するようにしています。地域の方々と顔見知りになるいい機会ですし、本当に親しくなります」と話しています。

同社の9店が共通して行っているのがアルミ缶のプルタブを回収する活動です。清掃活動の際、拾い集めたものや店内の自販機利用者が置いてい



ゴミを集める鶴ヶ島駅前店のメンバーたち



ホールでプルタブ集めの呼びかけ

くものなどを小まめに収集しています。会議などの時に参加者が鶴ヶ島の埼玉本部に持ち寄り、それを地元社会福祉協議会に運んでいます。平成19年には集めたプルタブの売却代金で介護老人保健施設にリクライニング式車イスを寄贈、感謝状を贈られています。これには何と3年もの時間がかかったそうです。鶴ヶ島インター店では景品カウンター脇にプルタブを入れるガラス容器を置き、お客様へ協力を呼びかけています。車イス1台を購入するにはプルタブ140〜200万個、約800kgが必要であることを説明し、「身近なボランティア活動として行

って参りますので、是非ご協力を」としています。こうした活動はすべて従業員のアイデアがきっかけで始まっています。吉川篤会長が社長の時、「商売は単独でやっているわけではない。地元貢献しなければいけない」と全従業員に企画を出すよう指示し、持ち寄ったたくさんさんの案の中からものを採用したのです。社名の「郡慶」も「慶びが集まる」という意味でネーミングされたと言いますから、その理念が貫かれています。従業員たちが育んだ活動は地元浸透し、息長く続いて行きそうです。